

出願権利化戦略を実現するための知財内部体制の構築

会社名 株式会社エムダイヤ
 所在地 富山県滑川市中村551-2
 従業員 11名
 資本金 3,600万円
 売上高 —
 業種 リサイクルプラントの製造・販売、各種産業機械の修理・改造・中古機械販売、アルミ・樹脂等のリサイクル材の加工・販売（製造業）



—「もったいない！」をカタチに。—
株式会社 エムダイヤ®

支援を受けるにあたって掲げた事業上の目標

Before

- 環境機械の「製造・販売」、「修理・改造」、アルミ・樹脂等の「リサイクル」という既存の3事業に加えて、新たに「機械のレンタル事業」を展開するとともに、プリント基板（貴金属）の再資源化市場への参入を本格化させたい。

支援を受けてできるようになったこと

After

- 新規参入する市場の実態把握が進展。リサーチ結果に基づき、ビジネスモデルを検討し、一部、売買・契約に関するシミュレーションを実施し、事業の見通しを掴む。
- 検討したビジネスモデルにおいて、他社参入抑止につながる特許戦略を検討。
- 新規事業に向けた社長の方針及び本検討成果を社内で共有し継続的な検討を可能とした。

今後の事業展開の展望

Future

- ビジネスモデル検討と顧客理解が進んだことで、レンタルビジネスの方向性が一定程度定まり社内で意識合わせができたことから、今後に向けてさらなる技術開発、特許戦略のブラッシュアップ等を行い、本格的な事業展開を目指す。

重点支援を受けた事業や商材

リサイクル事業において、プリント基板から実装部品を分別し貴金属を収集できる機器(エココレクター)を開発。また、機器の動作状況等をモニタリングできる、IoTモジュール(エココントローラー)も開発しており、両者を組み合わせて、機器のレンタルビジネス拡大を目指す。



【出典】株式会社エムダイヤ
<https://www.m-dia.jp/product/>



重点支援を実施するにあたって整理した課題

取り組んだ課題	課題に取り組んだ背景・理由
ビジネスモデルの検討	機器レンタルという、新しいビジネスモデルを実現するためには、具体的なサービス内容をはじめ、未確定・不明瞭な事項が多い状況。
事業計画の作成	廃棄基板から実装部品(貴金属を含む)を取り除く事業に関わっていく上で、具体的にどのような付加価値が生まれ、どの程度の売り上げが見込めるのか、不確定要素が多い状況。
知財戦略の検討	他社参入を抑止し、技術的・ビジネス的な優位性を保つために、特許戦略をさらに練る余地がある。
ブランディング	新事業が取り組むことを機に、インナーブランディングを含むブランディングの考え方について再考の余地が存在。



重点支援を通じて受けた支援と支援を通じてできるようになったこと

支援を受けた事項	支援を通じてできるようになったこと	活用専門家
ビジネスモデルの検討	<ul style="list-style-type: none"> 再資源化ビジネスを行う上で、外部環境(政策動向や法整備状況)の重要性を理解し把握できるようになった。 再資源化のサプライチェーン関係事業者や現場状況の情報を収集を通じて、機器提供の対象となる企業の絞り込みができるようになった。 提供機器の付加価値について、顧客メリット面、環境面など、多面的に検討・整理できるようになった。 	中小企業診断士 リサイクル・環境 事業分野の専門 家
事業計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> リサーチ結果に基づく売買・契約に関するシミュレーションを行って事業の具体的な絵姿を把握することが可能になった。 	中小企業診断士
知財戦略の検討	<ul style="list-style-type: none"> レンタルビジネスにおいて競争力に影響する技術要素・特許要素を抽出することが可能となった。 	中小企業診断士 弁理士
ブランディング	<ul style="list-style-type: none"> コーポレートブランドと事業ブランドの違いを念頭に置きつつ、ブランドアイデンティティの言語化ができるようになった。 インナーブランディングを行ったことで、「もったいないをカタチに」というブランドコンセプトを社内再認識し共有できた。 	中小企業診断士 ブランド専門家

支援チーム紹介

リーダー専門家: 中小企業診断士 西井克己

活用専門家: 中小企業診断士、ブランド専門家、リサイクル・環境事業分野の専門家、弁理士

知財総合支援窓口担当者: 富山県知財総合支援窓口 荒木信成

PO(プログラムオフィサー): 塩谷良知